

第39期第2回理事会議事録

日 時：2016年6月27日（月）13時30分～18時45分
会 場：ちよだプラットフォームスクウェア 会議
室402（東京都千代田区）

出席理事：岩崎俊樹，瀬上哲秀，石原幸司，近藤 豊，
佐藤 薫*，高薮 出，坪木和久，仲江川敏
之，平松信昭，藤部文昭，山田和孝，以上
11名

Web会議システムを通じた出席理事：塩谷雅人，中村
尚**，廣岡俊彦**，堀之内 武，余田成男*，
以上5名

*：議題5の途中から出席，**議題5の途
中から欠席

（理事現在数20名）

出席監事：鈴木 靖，高谷康太郎，以上2名

その他の出席者：新野 宏，藤谷徳之助，田中 博，
中村健治，三上正男（以上第38期理事），
下道，渡辺，志村（事務局）

議 題

1. 第38期第22回理事会議事録の確認
2. 第39期第1回理事会議事録の確認
3. 2016年度総会議事録の確認
4. 会員の新規加入等について

新入会18，退会4を全会一致で承認した。2016
年6月21日現在，会員数3,522名で個人会員は3,277
名。

5. 各委員会の引継ぎ

第39期理事会への引き継ぎ事項として，各担当理
事から担当業務の内容と懸案事項についての説明が
行われた。主な内容は以下の通り。

庶務…庶務担当は各種会議の司会及び議事録の作
成の補助を行う。また学会事務局及び会計担
当理事と密に連携し，気象学会の円滑な運営
に必要な作業を行う。更に電子情報委員会と
協同し，学会情報がホームページ等を通じて
会員や一般に適切に開示されるよう務める。

会計…会計担当は毎月現預金の検査と会計報告を
行う。また，学会事務局及び庶務担当理事と
密に連携し，気象学会の円滑な運営に必要な
作業を行う。

企画調整…企画調整担当理事の任務は，(1)支部長
会議，評議員会の開催，(2)事務局と連携し
た学会運営の円滑な実施。(3)総会の円滑な
実施，(4)他の委員会に属さない事案の処理，
等である。これらの事項を適切に実施する必
要がある。第38期では，定例の会議である支
部長会議等で，特に大会運営に関する改善策
について検討し，改善策をとりまとめ，最終
的に理事会として決定した。また，学会運営
の中期課題についても同時に検討を行い，検
討結果を「中間報告」として取り纏めた。評
議員会は「(公社)日本気象学会における理科
教育への取組」というテーマで開催し，今後
の活動について多くの意見を得，これらへの
対応策を示した。第39期では，これまで同様，
支部長会議，評議員会を適切に開催するとと
もに，大会運営に関する改善策の着実な実施，
中期課題についての継続的な検討，評議員会
で示した対応策の実施等を行う必要がある。
また，理事会での検討を受けて継続課題とな
った寄付金の一部について適切な処理につ
いて，可及的速やかに結論を得る。加えて，
中期課題，表彰等に関連する細則等の改正作
業を実施する。さらに，今後想定される公益
認定等委員会の立ち入り調査に対する対応
等を行う。

講演企画…第38期は，2014年度秋季大会を福岡国
際会議場で，2015年度春季大会をつくば国際
会議場で，2015年度秋季大会を京都テルサで，
2016年度春季大会を国立オリンピック記念
青少年総合センターで行った。秋季大会のあ

り方について委員会内で議論し、企画調整委員会及び支部長会議での議論を経て中期課題としてまとめられている。また、地球惑星科学連合大会でスペシャル・セッションを2011年度以来継続的に実施している。第39期では、大会運営に関する改善策の着実な実施、予稿集の電子化の検討、スペシャル・セッションと専門分科会の定義の明確化、受賞者記念講演の改善の検討、大会講演の録画等著作権に係わる運営方針の検討が必要である。さらに、負担が増加している委員会事務局の体制強化を検討する必要がある。

天気…第38期では、論文等を除いて電子投稿の本格運用を開始した。書面による著作権委譲手続きを導入した。投稿・編集に関して天気投稿規程を定めた。第39期では、天気のあり方、発行形態の検討、「天気」を面白くするための工夫等内容について引き続き検討する。また、編集作業における委員の負担軽減について検討する。用語検討についても現実的に可能な方法を検討する必要がある。

気象集誌…第38期では、通常号Vol. 92-94、特別号Vol. 92A, Vol. 92 No. 6, Vol. 93 No. 4, Vol. 93A, Vol. 94Aを発刊した。編集委員会をメール審議に移行した。科研費出版補助事業の採択を進めている。Impact Factorにて2014年1.250, 2015年0.933という評価を得た。第39期では、引き続き通常号の刊行と特別号の出版を行う。編集プロセスの迅速化の検討や各種規程類とWebの整備を行う。

SOLA…第38期では、2014年に44編、2015年に40編、2016年（6月22日現在）32編の論文を発行した。迅速な査読プロセスを維持した二ヶ月ルールの遵守のため、編集委員をサポートする体制を取っている。Impact Factorにて2014年0.939, 2015年0.791という評価を得た。第39期では、外国在住の編集委員の確保、

Special Editionの取り決めと発行、国際的プレゼンスの向上のための広報活動も検討する。

気象研究ノート…第38期では230～231号を刊行した。電子版気象研究ノートの会員向け無料配布の準備を進めている。執筆者向けの「原稿執筆要領」及び担当委員向けの「原稿編集要領」を策定した。第39期では、気象予報士や教員向けの研究ノートの刊行を視野に入れ、教育と普及委員会に内容を検討頂きながら進める。

気象学会賞…第38期では基本的に従前の選考手順に従って、候補者の選考を行い理事会に推薦した。また、選定規程の改訂を実施した。近年の推薦者数の減少傾向に鑑み、過去の受賞者に推薦依頼文書を送付するとともに、委員会内でも積極的に候補者を探す努力をしている。第39期では、他賞との整合性について意識して候補者を検討するとともに、推薦者の減少に対する対策を検討する必要がある。

藤原賞…第38期では各年度に2回程度、選考委員会を開き検討した。また、推薦者が少ない場合は委員会で候補者をサーチできるよう委員会規程の修正を行った。

岸保賞…第38期第22回理事会において、岸保・立平賞と名称を変更することが決まった。顕彰内容は変更なし。本賞について、藤原賞、気象学会賞、堀内賞との違い、受賞者の重複について十分注意の上推薦者を決定する。

堀内賞…2015年度、2016年度ともに2名を候補者として理事会に推薦した。気象学のカバーする領域の拡大とともに、堀内賞の対象分野である境界領域・隣接分野が曖昧になってきている。また1件の推薦という選定規程は現状に合わなくなっており、規程の変更が望ましい。

正野賞…第38期では、正野賞の選考にあたって、研究内容の独創性、研究テーマの重要性、気

象業務への科学的貢献，研究の質の高さ，大気科学への知的貢献，国際的な評価，研究の量，研究に対する候補者の貢献度，推薦書の内容を評価の視点と確認して推薦した。

山本賞…2016年度山本賞の選考に当たり，論文と推薦文を元に2名を山本賞候補者として理事会に推薦することに決定した。山本賞は論文賞であるが，業績賞と判断され推薦の数が高いためか，推薦数が少なくなっている。第39期では論文賞であることを認知されるよう告知文を検討する必要がある。

奨励賞…毎年，原則として3件の奨励賞候補者を理事会に推薦するための委員会である。2015，2016年度は2件の推薦を行った。奨励賞の対象は「優秀な調査研究」となっているが，地方の気象台などで行われているDVD-NHMを使用した調査の評価が難しく，第38期では研究の論文業績，業務化貢献を重視した選考を行った。

部外表彰等…気象学会外の各種団体が主宰する賞のうち，特に学会等機関推薦が可能なものに対して気象学会として推薦する候補者を選考し，推薦書を作成・応募する。各賞の性格を加味して検討しているが，範囲が広く，賞それぞれの性格の違いもあり推薦が困難であり，推薦数も少なくなっている。大きな賞に対しては，学会の賞を受賞している人を対象に，候補者を推薦することも考える。

名誉会員…隔年で委員会を開催しており，前回は2015年に開催した。これまでの審議については，5月に隔年で春季大会において選考委員会を開催して選考方針を決定し，1～2月の理事会に候補者を報告。翌年5月の春季学会総会に推薦し，承認を得る。

学術…第38期では，4部会が設置されていたが，大型数値モデル部会は一旦解散することが提案され，第39期は航空機観測に関する検討部

会，地球観測衛星部会，データ利用部会の3部会でスタートする。また，学術委員会は気象学関係のレビュー報告を作成している。さらに，日本学術会議及び地球惑星科学連合対応の施策を検討する。加えて，気象の研究・業務の重要な基盤となる地球観測の推進施策について，気象学会としての見解を明らかにすることが期待されている。第39期では，地球観測システムのあり方についてレビューする。また，気象学会自身の夢ロードマップの作成を検討する。

地球環境…各期において，地球温暖化問題に関する課題を分析している。第38期では，2014年12月に「地球温暖化—そのメカニズムと不確実性—」に関する出版事業を行った。2015年3月に第2刷を刊行した。その間，改訂作業を行い，新しい版に反映した。

気象災害…委員会設置以来，顕著な現象・災害発生時に当該事象に関する研究会等の開催，他の分野・学会と連携した研究会等の活動，気象災害に関する知識・情報の普及を行ってきた。第38期でも，メソ気象研究会と共催の研究会の開催，地球惑星科学連合大会ユニオンセッションへの参加等を行った。また，新たに発足した防災学術連携体へ，積極的に参画した。第39期においても，重大な気象災害が発生した場合には，当該事象に関する研究会の開催や，スペシャル・セッションの開催を計画する必要がある。また，評議員会で表明した気象学会としての気象防災リテラシーの策定を検討する。さらに，防災学術連携体との連携を一層推進するとともに，関連する学会・気象庁との連携を進める。

気象研究コンソーシアム…気象庁と気象学会の共同研究の共同研究運営担当者として契約を行い，運営に関する協議を行っている。第39期では，コンソーシアム活動と関連する専門

分科会を提案・開催し、本活動の成果発表や研究交流を図る。気象学会員以外の研究者の参加について引き続き検討する。また、学術委員会のデータ利用部会と協力し、情報インフラの新規提案・予算獲得を目指した議論の展開と活動の開始をお願いしたい。

教育と普及…一般市民を対象とした気象学の知識の正しい理解と普及を目的として活動しており、夏季大学、公開気象講演会、気象サイエンスカフェ、気象教育懇談会、ジュニアセッション、気象予報士CPD制度への協力を主な活動内容としている。また、気象教育は、気象に対する国民的な理解を深めることのほかに、地球環境問題や防災の問題を国民に正しく理解してもらうためのリテラシーとして必要である。第39期では、上記事業を滞りなく実施するとともに内容を再検討することが必要である。また、第38期評議員会で学会として示した対応策について、着実に実施する。

国際学術交流…第38期は第1回アジア気象会議(以下ACM)を2015年10月26~27日に京都大学で開催し、参加者は日本69名、中国58名、韓国61名、インドネシア1名、米国3名、英国1名、オーストラリア1名の計194名で発表件数192件であった。ACMに関する議定書に3国代表者が署名して確定したことが大きな一歩。アジア気象学会(仮称)設立に向けた努力の継続が求められる。また、IFMS(International Forum of Meteorological Societies)への対応を検討する必要がある。

電子情報…気象学会のウェブサーバ及びメールの管理及び運営を行っている。第38期には、学会サーバの移転、コンテンツ管理システムへのWordPress導入、SSLサーバ証明書の取得を行うとともに、委員会や支部毎のメーリングリストを作成した。第39期には、会員アカウ

ントを利用したコンテンツの検討を行う。また、支部や委員会の協力のもと、学会ウェブのコンテンツの充実を図る。

人材育成・男女共同参画…第38期において、改正労働契約法に対する要請の公表、ホームページの充実、「女性の集い」の開催を行った。第39期では学会開催時の保育支援に関する大会委員会との連携を行うとともに、男女共同参画、ポストク問題に関して引き続き情報収集を行って議論を進める。

6. 各委員会からの報告

庶務…以下の報告があった。

1) 転載許可

- ①申請者：(株)日本入試センター
転載元：日本気象学会編「気象科学事典」(1998年10月2日)、466p、藤田スケール
転載先：「理科6年 正月特訓入試実戦演習04MU」、2017年1月発行予定

2) 後援名義等使用依頼受付

- ①名称：第34回レーザーセンシングシンポジウム
主催：レーザー・レーダ研究会
期日：2016年9月8-9日
場所：野沢温泉スパアリーナコンベンションホール
名義：協賛
- ②名称：第26回設計工学・システム部門講演会(D&S2016)
主催：一般社団法人日本機械学会
期日：2016年10月8日~10日
場所：慶應義塾大学日吉キャンパス
名義：協賛
- ③名称：第30回数値流体シンポジウム
主催：日本流体力学会
期日：2016年12月12~14日
場所：タワーホール船堀(東京都江戸川区)

船堀 4-1-1)

名義：協賛

④名称：「JASIS2016」（旧名称：分析展／科学機器展）

主催：一般社団法人日本分析機器工業会，
一般社団法人日本科学機器協会

期日：2016年9月7～9日

場所：幕張メッセ国際展示場

名義：後援

3) その他

地学オリンピック日本委員会からの協賛金依頼について全会一致で承認した。

会計…2016年6月分の収支及び現預金検査報告。

秋季大会交付金増額申請について，大会委員会に再度精査をお願いする。

天気…Vol. 63 No. 6 (2016年6月号) の掲載記事と，
Vol. 63 No. 7, 8 (2016年7, 8月号) の予定記事の報告。

表彰…堀内賞受賞候補者の推薦について，推薦委員会より候補者が提示され，推薦理由についてチェックを行った。今後，全理事の投票により受賞者を決定する。

・正野賞受賞候補者の推薦について，推薦委員会より候補者が提示され，推薦理由につい

てチェックを行った。今後，全理事の投票により受賞者を決定する。

・山本賞受賞候補者の推薦について，推薦委員会より候補者が提示され，推薦理由についてチェックを行った。今後，全理事の投票により受賞者を決定する。

人材育成・男女共同参画…保育についてのガイドラインの検討状況について報告。

7. 「原子力関連施設の事故に伴う放射性物質拡散に関する作業部会」の活動について

これまでの活動状況について報告。今後の作業部会の位置付けについては，学術委員会か気象災害委員会の部会として再編することを検討中。

平成28年7月22日

公益社団法人日本気象学会

理事長 岩崎 俊樹

監事 鈴木 靖

監事 高谷 康太郎